

令和2年度 加賀看護学校 学校評価結果

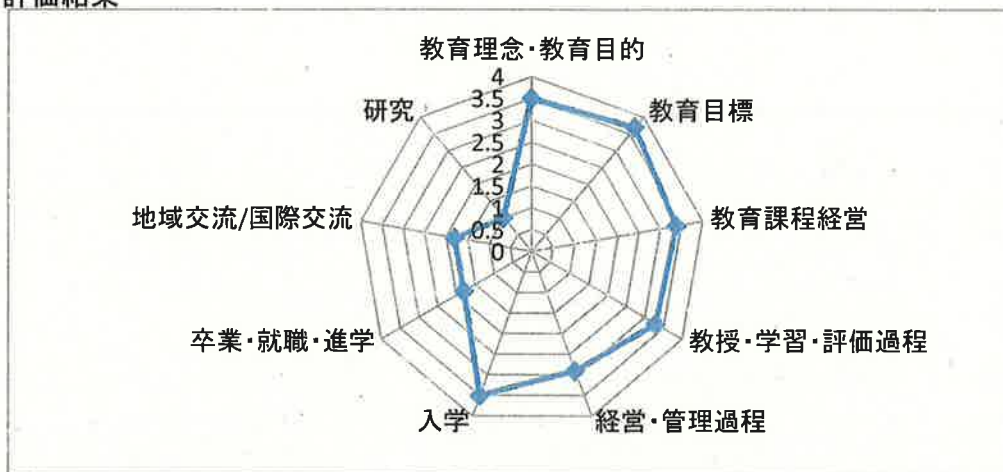
1. 評価内容

I 教育理念・教育目的	5項目
II 教育目標	5項目
III 教育課程経営	15項目
IV 教授・学習・評価過程	12項目
V 経営・管理過程	14項目
VI 入学	2項目
VII 卒業・就職・進学	4項目
VIII 地域交流/国際交流	7項目
IX 研究	3項目
計	67項目

2. 評価の基準

4 当てはまる 3 やや当てはまる 2 やや当てはまらない 1 当てはまらない

3. 評価結果



4. カテゴリーごとの評価の概要

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の教育理念・目的・目標は、学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載している。学生には入学時のガイダンスで周知しているが、それ以降は、学習過程における指針として教育理念・目的を意識化する機会がない。クラス運営や誓詞式など、教育理念・目的に立ち返る機会を意識的に設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育理念・目的は、整合性のあるものとなっている。
II 教育目標	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり、教育内容を網羅したものとなっている。 ◆卒業後の継続教育の考え方を明確に示していないため、見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業後の継続教育について、同窓会がその役割の一端を担うようにはどうか。
III 教育課程経営	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育課程は教育理念・目的・目標から考えられており、学科進度・科目・単元の考え方もシラバスに明文化されている。 ◆令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う休校措置等により講義や臨地実習が計画通りに実施できなかった。しかし、混乱もあったが、教員全体で情報共有・対策検討を繰り返し、確実なカリキュラムの遂行と単位修得への支援を行った。 ◆教育課程評価の体系においては、学生による授業評価を実施しておらず課題となっている。授業評価の実施要領に結果活用の倫理規定を追加し、授業評価を実施していく。 ◆教員の科目分担は偏りなく配分されているが、休校措置に伴う過密スケジュールによって授業準備に十分な時間がとれていない。また、学会や研修会への参加も今年度は実施できていない。今後も移動自粛により参加が望めないため、オンラインでの学会・研修に積極的に参加し、自己研鑽する機会を設けていく。自己研鑽だけでなく、授業研究を再開し相互研鑽の機会も増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆安全教育の一環として安全委員会が機能していることは評価できる。組織図の中に位置づけることも検討していただきたい。 ◆コロナ禍で休校措置等状況の変化がある中、臨地実習をはじめ教育方法を柔軟に変更しカリキュラムが確実に遂行できたことは評価できる。特別な1年であった中で、教員は教育実践や自己研鑽への努力があったと言えるのではないかと。

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
		<ul style="list-style-type: none"> ◆臨地実習については、定期的の実習指導者会議を開催し、実習施設との十分な調整ができています。今年度より新たな病院が実習施設となったが、打ち合わせを重ね実習指導体制を構築することができた。 ◆臨地実習中の事故は積極的にヒヤリハットレポートをまとめている。事例は安全委員会が分析し、学生への周知もできており、安全教育、安全対策ができています。今後は、ケアの対象者の権利の尊重について、実践の場で考えられるよう、指導計画のなかに含めていく。 	
IV 教授・学習・ 評価過程	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育内容は、教育理念・目的・目標と一貫性をもち、科目目標・単元目標、科目間の関連性、評価方法はシラバスに明示している。シラバスは、学生の学習への動機づけとなっている。 ◆授業の展開では、シラバスに沿って学生の学習が進化するよう授業内容に応じて授業方法を選択している。また、教員間で学生の学習状況を共有し学習を支援している。 ◆目標達成の評価とフィードバックは各教員に委ねているため、学生による授業評価も含め計画的に行い授業改善につなげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業研究は、互いに授業を見学し合いディスカッションをして授業の成果を高める。授業評価とともに授業研究にもぜひ取り組んでいただきたい。
V 経営・管理 過程	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校長及び事務局長が病院との兼務であるが、職員会議等で管理者の考えを確認しながら、連携して学校運営にあたっている。組織体制は、学則等に明示されており、職務分掌に沿って各々の役割を果たすよう努力している。 ◆財政基盤は授業料のほか大部分は市の一般財源となっている。教職員の意見も反映しながら支出計画及びその根拠を示し予算確保している。 ◆学習の質向上を図るための設備や教材の整備は計画的に行っている。 ◆学生の経済面への支援として、就学金制度の説明会と手続き等の支援に加え、コロナ禍による経済的貧困学生への助成の情報提供・手続きへの支援を行った。日々の学習相談やその他の悩みについてはクラス担当が対応している。 ◆学校の情報提供は、コロナ禍の影響により入学式及び誓詞式後の説明会を中止したが、重要案件については保護者宛の文書による情報提供を行った。ホームページの活用は予算や担当する人材不足があり十分ではない。 ◆学校の移転構想が未決定の状態である。 ◆自己点検・自己評価について、システム化の構築が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域貢献を兼ねた広報活動に取り組んでいただきたい。看護学生だからこそできる活動を行いそれが地域貢献につながりPRとなる。学校や学生を知ってもらうような広報活動の工夫が必要である。 ◆ホームページの内容が古くタイムリーな情報提示が必要。また、先輩からのメッセージなど若い人が関心を示す内容へと刷新し、ホームページの効果的な活用に期待する。 ◆教室の黒板が小さく、教室環境が改善されるとよい。学校移転時には検討していただきたい。
VI 入学	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度はコロナ禍の影響により、高校訪問を中止しオープンスクールの開催も1回となり募集活動不足であった。 ◆入学選抜方法は妥当である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学選抜方法は妥当である。
VII 卒業・就職・ 進学	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ◆卒業時の到達度は、看護技術経験状況と看護の統合と実践IVにおけるOSCEで把握している。しかし分析に至っていない。 ◆就職・進学は100%決定し国家試験は97%の合格率である。就職者の54%が加賀市内の医療機関に就職している。 ◆卒業生の活動状況の調査及び分析が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍で3年生の臨地実習期間が短縮したことで、看護の展開やアセスメント能力育成に影響があるようだ。新人看護師の状況として、技術面に関して毎年の新人教育カリキュラムではおぼつかなかったり、今ぐらいの時期にできるだろうことが到達に至っていない現状がある。 ◆臨地実習のあり方に変化があった年だと思うが、学生はチェックリストを元に実習中に積極的に技術を経験し、就職後は抵抗なく患者に技術を実施している姿もある。 ◆卒業生へのフォローとして里帰り会をしていたと思うが、コロナ禍にある特殊な状況だからこそ里帰り会が開催できるとよい。

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
VIII 地域社会・ 国際交流	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ◆例年参加していた地域行事の開催の中止、学校祭の中止により、地域との交流や教育活動の発信の機会がなかった。 ◆国際的視野を広げるために、英語や国際看護の科目を設定している。近隣の学校との交流や海外で活躍する卒業生の紹介などを検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆留学生が集う場所・機会をとらえて、国際交流できるとよい。近隣に外国人留学生の日本語学校があり活用してはどうか。
IX 研究	1.0	<ul style="list-style-type: none"> ◆研究ができる環境・時間は各自で確保する現状であり、研究活動を保障する体制は整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍にあり研究に取り組めなかったことはやむを得ないが、研究活動への取り組みは課題である。